



桜川市民劇団 どてかぼちや

桜川市民劇団「どてかぼちや」は、桜川市民の皆さんで構成されるボランティア劇団で、ユーモアあふれる時代劇をイベントなどで上演しています。
また、振り込め詐欺など、話題となっている事件も寸劇風に仕上げ地域の犯罪防止にも一役買っています。

逆境に耐え花を咲かせる 「どてかぼちや」

桜川市民劇団「どてかぼちや」は、旧岩瀬・大和・真壁の人々が交流し、桜川市民としての連帯感を確立するとともに、中高年の生きがいと自己啓発を図るために演劇をやってみようと設立されました。

印象的なこの劇団名は、土手にへばりつきながら（逆境に耐え）太陽に向かって花を咲かせ実を付ける、どてかぼちや。軽視するなどの意味もあり「どてかぼちやなら下手でも許される？」と考え命名されました。

団員不足や資金不足での 「どてかぼちや」の船出

劇団を運営していくには、当然ながら資金が必要になります。また、監督は誰が？団員はどう集める？など、桜川

市民劇団「どてかぼちや」の船出は疑問だらけでした。

資金の確保は、団員が企業や個人の方に募金呼びかけましたが、思うように集まらず、不足分は団員が負担することになりました。そのため、大道具・小道具・小物などは募金で購入できましたが、衣装は、団員各自で持ち寄ることになりました。

団員の募集は、口コミで行ったところ、電気業・水道業・農業、会社員、市職員など様々な職種から様々な人材が集まり、平成19年12月に桜川市民劇団「どてかぼちや」は船出しました。

荒波を乗り越えた初舞台

劇団結成から3か月で、東西総合病院講演会のアトラクションで上演された、第1回作品「人情桜宿」は、やくざ者が人情にほだされて、真人間になるユーモア時代劇。

■何度も繰り返される セリフ録音

上演中のセリフは、すべて事前録音で行われます。事前録音などの音響を担当するのは、市内で水道業を営む郡司さん（左写真／右下）。自前の機材を録音現場に持ち込み、録音が開始されます。

劇団員の緊張した雰囲気の中進められるセリフ録音は、周囲の雑音に気配りしながら、1カット2、3分の録音が行われます。途中、座長の天賀谷さん（左写真／左から4人目）と郡司さんから適切な指摘が入り、何度もセリフ録音は繰り返されます。

■忙しい時間の合間を 縫って稽古

本番直前の立ち稽古は、劇団員の忙しい時間の合間を縫って夜間に行われます。

ステージに録音したセリフが流れると、劇団員は台本を片手に自分のセリフのタイミングや立位置を確認しながら本番さながらの稽古が行われます。指摘を受けてその都度、演技をやり直す団員の表情は真剣そのものです。また、休憩中も台本を片手に自分のセリフの順番確認、振りを交えた演技などを個々に練習していました。事前録音に合わせての演技は思いのほか難しいようです。

■念入りのリハーサルを 経ていざ本番

今回は、岩瀬体育館ラスカで「桜宿犯科帳Ⅱ」が上演されました。

この作品は、警察署からの要請により、座長の天賀谷さんが台本を書いた、江戸時代と現代を融合させた寸劇で、中高年が犠牲となる、振り込め詐欺などの犯罪を未然に防ぐと「岡っ引きの親分」vs「振り込め詐欺集団」のストーリーをユーモアたっぷりに描いた作品です。
一つの公演の裏舞台では、台本作成からセリフの録音、立ち稽古と劇団員の多くの汗が流されています。



緊張した雰囲気の中、座長や音響担当から適切な指示が入り、セリフ録音は繰り返されます。



録音したセリフと振りを交えて行われる立ち稽古の様相。



台本の作成からはじまり、セリフ録音、立ち稽古を経て一つの公演が行われます。

犯罪防止にも貢献する 市民劇団に

配役を決め、台本を読み、稽古をはじめると、団員の平均年齢が70歳と高齢のためか、セリフが覚えられないなどの事態に遭遇しました。2、3回の稽古で脱落する方もあり、そのため、セリフは録音方式（口パク）になりました。「上演時間は1時間ほどでしたが、緊張の連続の初舞台は無事幕を閉じました。」と、団員の皆さんは話していました。

ペーンなどにも積極的に参加し、犯罪防止啓発に協力しています。また、継続的に振り込め詐欺の注意喚起を促すため、関連作品「桜宿犯科帳Ⅱ」や「振り込め数え歌」（唄／丘とみ子さん）も制作し上演中です。

市民の皆様、機会がありましたら是非ご来場ください。また、興味のある方は、お問い合わせください。

■問合せ／☎029617514674（座長 天賀谷まで）

様々な職種の様々な人材で構成される桜川市民劇団「どてかぼちや」は、現在団員が35人。ユーモアあふれる時代劇を上演し人々を魅了しています。